

答 辞

本日は、本多学長をはじめ諸先生方、並びに御来賓の皆様にご臨席を賜り、このような盛大な学位授与式を挙げていただき、修了生一同、心より感謝申し上げます。

姫路獨協大学大学院は、現役大学生の進学者のみならず、会社に勤めながら通っている方など、様々な学生がいます。講義では、受講生の年齢や背景が異なっているので、色々な意見が飛び交い議論が白熱したことなどが思い出されます。

大学院の講義は、受け身の授業ではなく、学生一人一人が主体的に考え、その考えを独りよがりにならずに伝える事に重きを置きます。独自の考えを形成し、それをわかりやすく伝えるためには、まず過去の学説などについて、講義や読書によって知識を深め、それを材料に考えることが必要であります。講義での発表の準備をしている時などに、自分の知識や理解や思考が、いかに浅薄であったかを実感し、さらなる努力を強いられたことがしばしばありました。このような過程で、幅広い知識をもとに深く考え、その考えをわかりやすく伝えるための表現を工夫するという習慣が身についたと思います。

2年生になると研究テーマを決定して、本格的に修士論文の作成にとりかかりましたが、これはまさしく自分との戦いでした。修士論文は、自分が手を抜けばその分が正確に成果に反映される鏡の様です。一般的な資格試験であれば、問題に対する模範解答が必ず一つ用意されています。しかし、修士論文は自分の責任で問題意識を持ち、結論を述べなければならない。答えも一つではないかもしれない。考えなければならないことが次から次へと出てくるので、暗い気持ちになって諦めかけたことが何度かありましたが、なんとか踏みとどまり、暗中模索の中、修士論文が完成した時の感激はひとしおでした。

入学当初は、無事に修士論文を書き上げ修了することができるのかどうか不安でいっぱいでした。しかし、先生方や刺激を与えてくれる学友にも恵まれ、本日を迎えることが出来ました。

修了生一同は、これまで先生方からのご指導を受けながら、それぞれが掲げた研究課題に取り組み、この2年間邁進して参りました。その間、向かうべき道を見失った時、指導教授をはじめとする多くの先生方のご指導、ご鞭撻により、正しい方向へ進むことができました。今日まで熱心に指導して下さいました先生方、より良い学習環境を整えるために、日々、取り組んで下さった学校関係者の方々に、修了生一同、心より感謝申し上げます。

姫路獨協大学大学院での2年間は、私たちにとって大きな自信となり財産となりました。今後いかなる道へ進んだとしても、この経験は人生の中で大いに役立ちます。

私事になりますが、私は学部を卒業した後、いくつかの職業を経験し税理士を志すようになりました。税理士試験は難しく、資格取得に必要な科目の試験の大半に合格しましたが、まだ必要要件を満たせずにおりました。本日、修士号の学位を授与していただいたことで資格を取得できる運びとなりました。

このような実りのある時間を過ごすことが出来たのは、諸先生方、職員の方々、そして家族のおかげです。支えて下さった皆様方に、あらためて御礼申し上げます。

修了生一同は、修了後も学術及び人間形成に磨きをかけ、社会に貢献できるよう努めてまいります。

最後になりましたが、この春、姫路獨協大学では、創立以来の大改修工事が進行しており、まもなく完了する予定です。より美しくなった魅力ある姫路獨協大学の発展と、皆様方のさらなるご活躍とご健勝を心よりお祈り申し上げ、答辞とさせていただきます。

ありがとうございました。

平成25年3月26日

大学院修了生総代

法学研究科法律学専攻

河野 元貴